



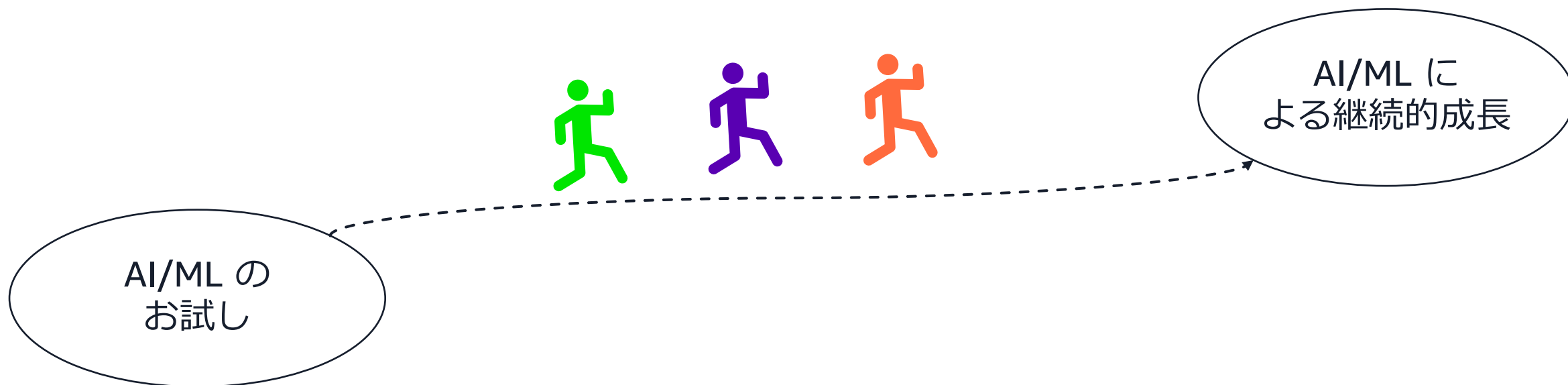
ML Enablement Workshop

改善編 : Continuous improvement

ML Enablement Workshop のゴール

AI/ML をプロダクトの成長に繋がられるチームを組成すること。

経営層の支持のもとプロダクトマネージャー（製品責任者）、開発者、データサイエンティストが組織横断でチームを組成し、1~3 か月で継続的に成果を積めるサイクルを開始します。



参考：[プロダクトの成長をリードする生成系 AI の活用戦略](#)

ワークショップは 2 パートで構成されます

1~3 か月で取り組むユースケースと効果計測の方法は実践編で決めます。改善編にてお客様自身で見直しを行ったのち、効果検証の計画を立て活動を開始します。

実践編 (3.5 時間)

目的

チームで顧客起点の意思決定プロセスを体験し必要な観点やデータに気づく

手段

Amazon のプロダクト作りのプロセス Working Backwards を限りある時間で通しで行い、ユースケースと効果計測を決めるためのポイントをつかむ。

改善編 (3 時間)

目的

チーム自身の気づきをもとに意思決定を改善した上で計画を立て活動を開始する

手段

実践編の結果を参加者主導で改善する。
1~3 カ月以内のマイルストーンと具体的な Todo を決め各メンバーに割り振り、仮説検証を開始する。

参加人数は 3~6 名程度を想定し、それ以上の場合 +1 時間前後が必要です

本日は改善編を行います

改善編のゴール

最初の成果を得る 1~3 カ月の計画を作成する



なぜ 1~3 カ月か？

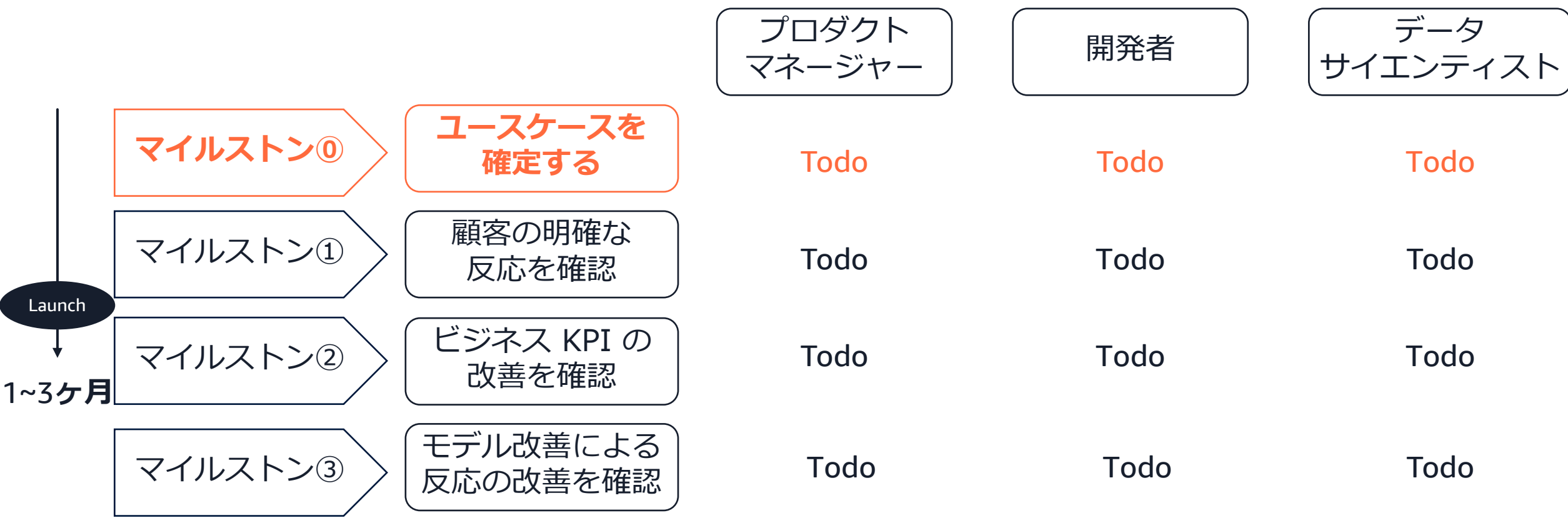
AWS の CTO に対するエンゲージメントの記録に基づくと、3 ヶ月以内には AI/ML より優先すべきクリティカルなタスクが発生することが多い。

人がある習慣を身に付けるには、平均で同じ行動を 66 日（2 カ月超）続けることが必要（※）

※ロンドン大学のフィリパ・ラリー博士の研究に基づく

準備フェーズは本日完了させる

実践編の Working Backwards を補完することで意思決定を改善し①に進む



Day2 : 改善編の進め方

~120min : プロセス改善の実施 (お客様が進行 !)






60min : 1~3 カ月間で成果を得るための具体的な計画を立てる

改善が必要なプロセスの実施を含め、 1~3 カ月間の間に最初の成果を得るための具体的な計画を立てます。

計画の開始

※改善が必要なプロセスがない場合、 60min で終了します

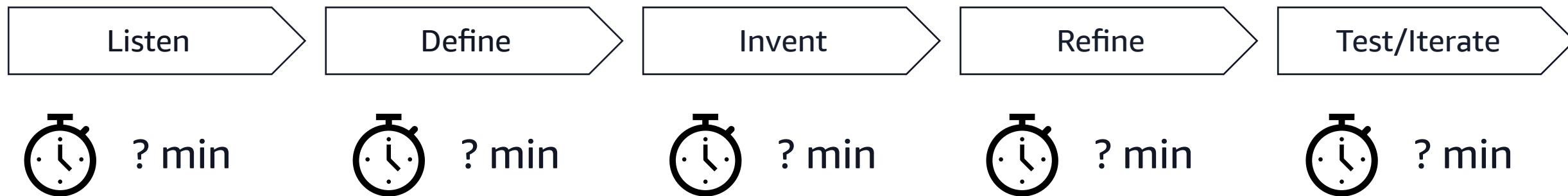
改善編を進める前の確認

1.  : **実践編の振り返りから、改善するプロセスを特定し準備している**
改善編の時間配分、ファシリテーターを決めておいてください。
Listen や Invent で使用する情報・事例は可能な限り事前に収集してください。
2.  : **実践編のアウトプットは電子化・共有されている**
Define で作成した評価表と評価結果、Refine の文書、Test/Iterate の指標は特
にお願いします。
3.  : **改善編の前半、プロセス改善の進行は参加者が行う**
計画を立てた後のプロセス改善から進行は参加者で実施いただきます。すでに
計画の実施が始まっているためです。

プロセス改善のスタート

はじめに、各プロセスの時間配分をお願いします。

時間配分のねらいについて共有した、後さっそくワークに入りましょう。



※タイムキーパーが必要な場合、ファシリテーターが行います

Day2 : 改善編

1. Listen : 顧客は誰か？
2. Define : 課題と機会は何か？
3. Invent : 解決策は何か？
4. Refine : 最終的な顧客の体験は？
5. Test/Iterate : 成功を計測する指標は？
6. 仮説検証計画の作成



顧客についての情報の拡充



推奨するアクション

- 想定されるレビューの枚数が足りない場合、営業やカスタマーサポートの方からできるだけ実際のフィードバックを収集し、加える



経路を検索したが
不正確で時間も実
態に合わず、遅刻
してしまった

目的が達成できない
不快な体験
解約につながる



きちんと経路がわ
かるので不満はな
いが特別好きでも
ない

目的は達成できた
特別な感動はない
他に乗り換える



素晴らしいアプリ。
経路に留まらず出張
計画を立てられる



目的は達成できた
特別な感動がある
継続して利用する

Day2 : 改善編

1. Listen : 顧客は誰か ?
2. **Define : 課題と機会は何か ?**
3. Invent : 解決策は何か ?
4. Refine : 最終的な顧客の体験は?
5. Test/Iterate : 成功を計測する指標は?
6. 仮説検証計画の作成

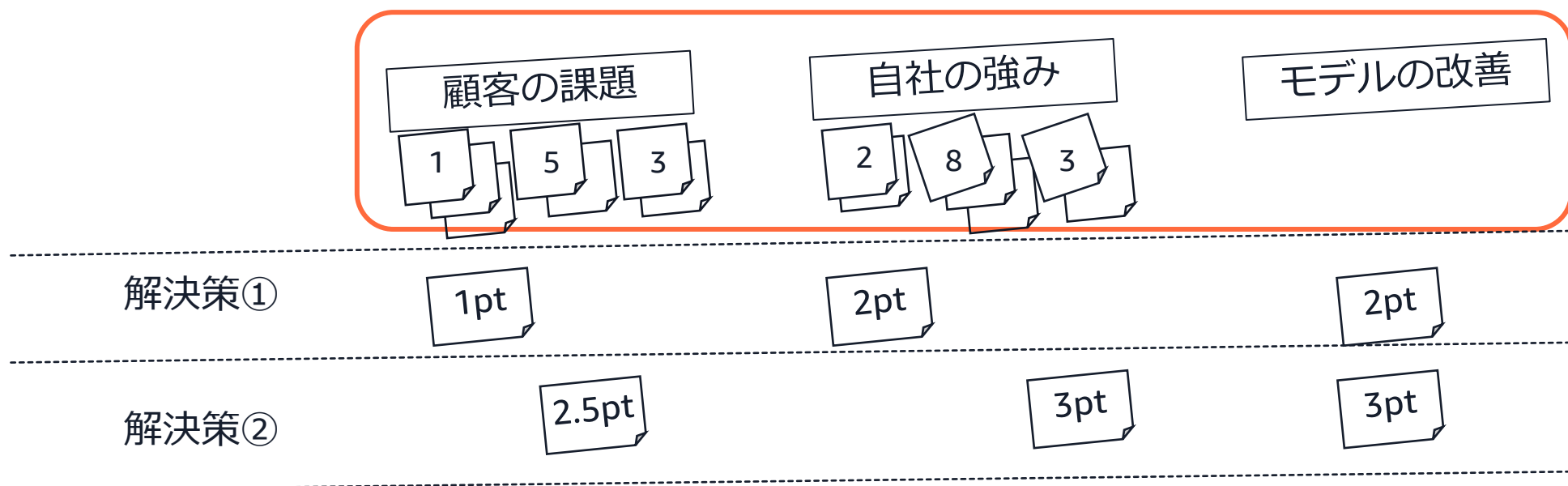


課題と重みの見直し



推奨するアクション

- Invent の採択結果や精度に問題があれば、課題・強みの数と重みを見直す
- Invent で個々人の評価結果がぶれていれば、評価基準の明確化を検討する
- モデルの改善の重み上限値についても検討する



Day2 : 改善編

1. Listen : 顧客は誰か？
2. Define : 課題と機会は何か？
3. **Invent : 解決策は何か？**
4. Refine : 最終的な顧客の体験は？
5. Test/Iterate : 成功を計測する指標は？
6. 仮説検証計画の作成

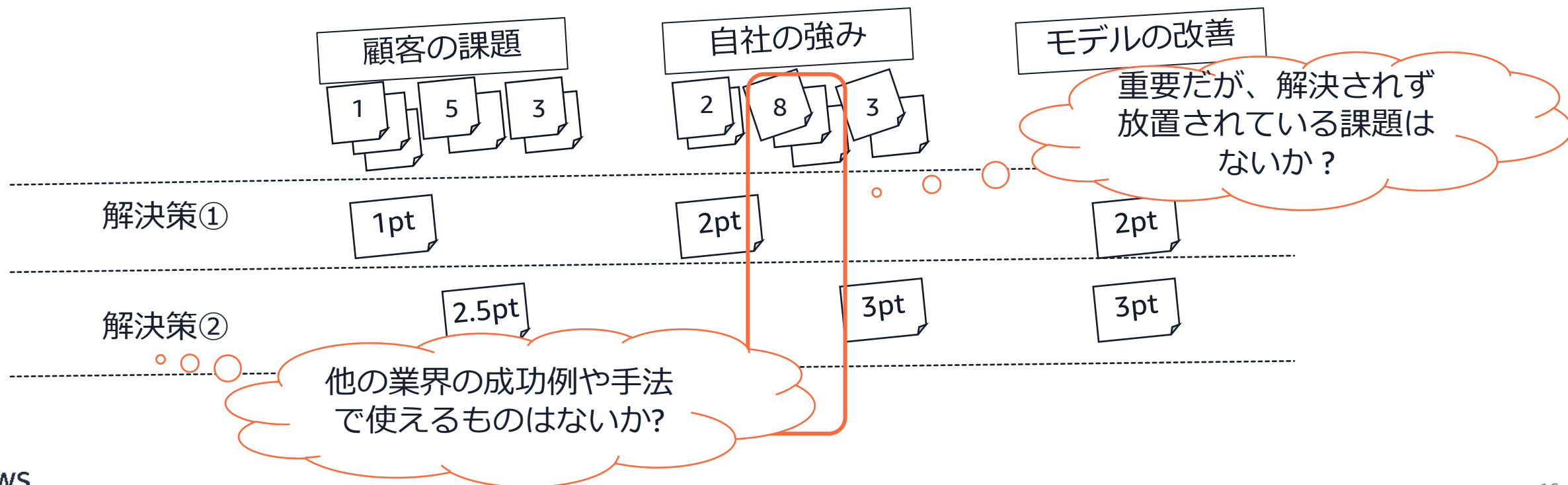


事例 / 解決策案の拡充



推奨するアクション

- 対処できていない課題、活かせていない強みがある場合、解決策を収集する
- 他の業界の解決策も収集する、既存の解決策をマージするなどして洗練する



Day2 : 改善編

1. Listen : 顧客は誰か？
2. Define : 課題と機会は何か？
3. Invent : 解決策は何か？
4. **Refine : 最終的な顧客の体験は？**
5. Test/Iterate : 成功を計測する指標は？
6. 仮説検証計画の作成



企画文書のブラッシュアップ



顧客向けメッセージ

企画役

体験手順

開発役

FAQ

営業役 (顧客向け)

企画役 (社内向け)

推奨するアクション

- 読める文章として整えることで、思考・訴求内容を洗練する
- 各パートを社内の適切なロールの方にレビューをもらい、修正する
- 曖昧、理想と現実にギャップがある赤字の記載箇所を、データやヒアリング結果でクリアにする

Day2 : 改善編

1. Listen : 顧客は誰か？
2. Define : 課題と機会は何か？
3. Invent : 解決策は何か？
4. Refine : 最終的な顧客の体験は？
5. **Test/Iterate : 成功を計測する指標は？**
6. 仮説検証計画の作成



計測方法の実現性を高める



推奨するアクション

- 評価指標を実際に計測できるか確認する
- 合格基準が、現在の数値やあるべき姿から見て妥当か確認する
- 最初の合格基準が 1~3 カ月以内にクリアできるか確認する

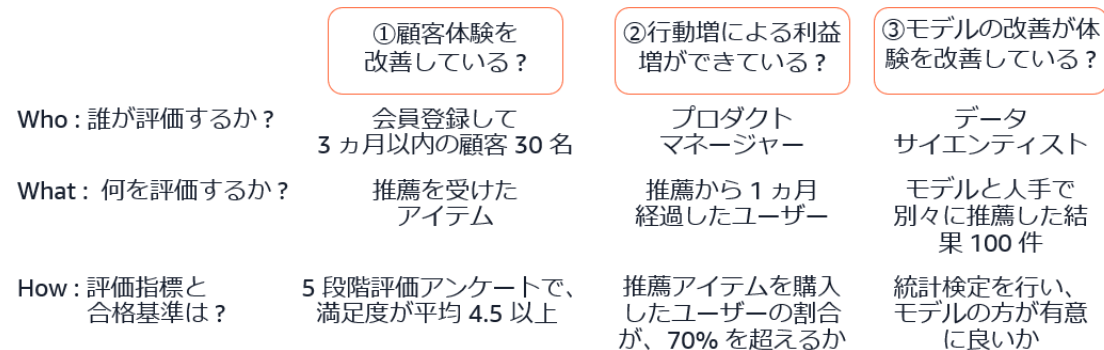
目標の計測方法を決める



Who / What / How の質問に答えていくことで、目標の計測方法を作成する。

最初のマイルストーンは 1~3 カ月以内に達成できるようにする。

※ 以下は EC サイトで推薦を行う場合の一例



© 2024, Amazon Web Services, Inc. or its affiliates. All rights reserved.

38



Well Done !!



Day2 : 改善編

1. Listen : 顧客は誰か？
2. Define : 課題と機会は何か？
3. Invent : 解決策は何か？
4. Refine : 最終的な顧客の体験は？
5. Test/Iterate : 成功を計測する指標は？
6. **仮説検証計画の作成**



今後のタイムラインとタスクを決める

成長サイクルの実現に向けた 1~3 カ月の計画を作成する。



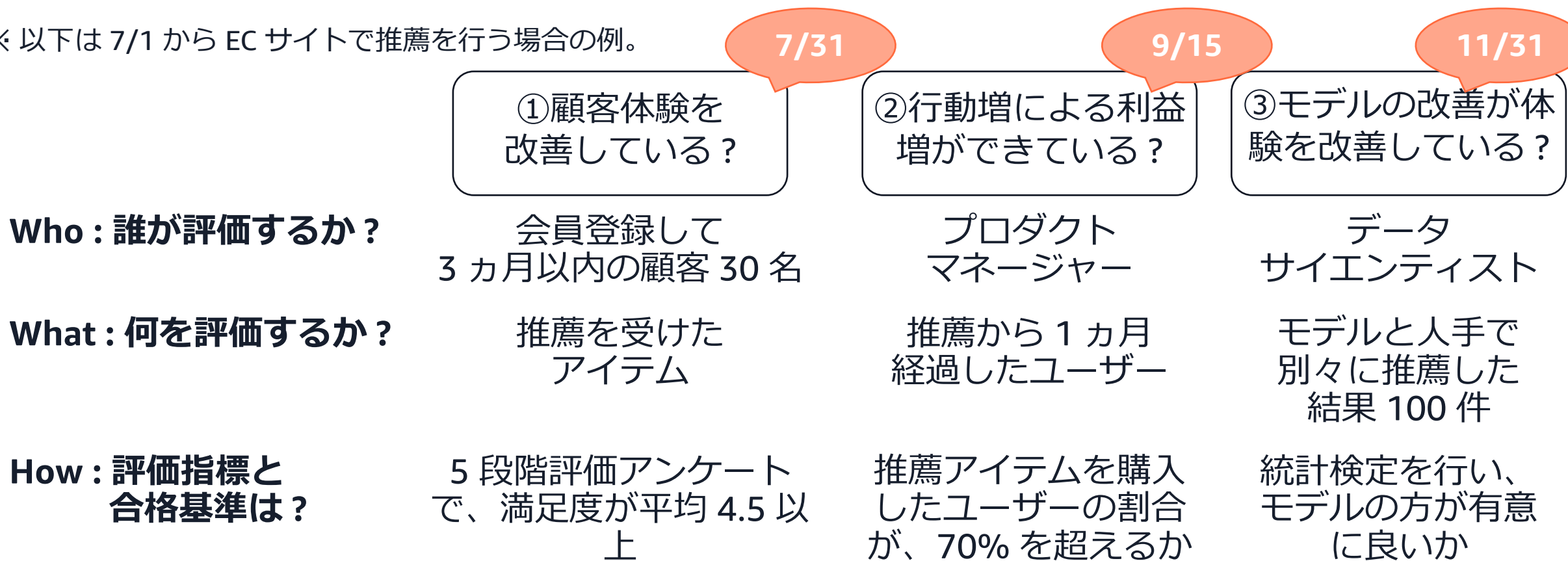
タイムラインを決める

 15 min

Test/Iterate を下地に、各マイルストンの達成日時を決める。

(Test/Iterate の目標値が高い時は一段前のステップを作るなどする)。

※ 以下は 7/1 から EC サイトで推薦を行う場合の例。



タスクを決める

 5 min

[個人ワーク] 各マイルストーンで自身が行うべきタスクを記載する



タスクを決める

 15 min

[グループワーク] 各自のタスクを貼りだし、共有する。
不足がないか、全員で点検する。



スケジュールとタスクを登録する

 15 min

定期的な進捗会議とマイルストーン完了時点の CXO 報告を **ワークショップ内で スケジューラーに設定する**。タスク管理システムがあれば、タスクを登録する。



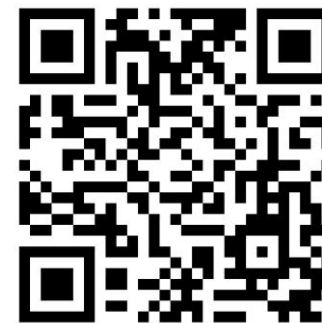
Next Step : プロトタイプによる効果計測 生成 AI をすぐに試せるサンプルを GitHub で公開

The screenshot displays the AWS Generative AI console interface. On the left, a sidebar lists various use cases: ホーム, チャット, RAG チャット, Agent チャット, 文章生成, 要約, 校正, 翻訳, Web コンテンツ抽出, 画像生成, and 映像分析. The main area shows a chat window with a prompt: "LLM とチャット形式で対話することができます。細かいユースケースや新しいユースケースに迅速に対応することができます。プロンプトエンジニアリングの検証用環境としても有効です。" and a response: "LLM は、大量の文章を要約するタスクを得意としています。要約する際に「1行で」や「子供でもわかる言葉で」などコンテキストを与えることができます。". Below the chat window, there are sections for "Agent チャット" and "要約". On the right, a sidebar lists various topics: 新しいチャット, ポットコンソール, スター付きのポット, 最近使用したポット, 就業規則, Corporation Employment Regu, Fitness coach, 会話履歴, 福利厚生, EmployeeBenefits, Explanation for CDK, Testing Conversation, EC2とはなにか, and AWS主要サービス紹介. The main area on the right shows a chat window with a prompt: "どのような福利厚生がありますか？" and a response: "XX社の就業規則のArticle 6によると、会社は従業員の健康と福祉の向上を目指して、以下の福利厚生を提供しています。" followed by a list of benefits: 各種社会保険への全額加入, 社員食堂の提供と食事補助, 年1回の無料健康診断, フィットネスクラブの会員料補助, 内部研修プログラムと資格取得の支援, and 定期的な社員旅行とレクリエーション活動の開催. Below the list, it says "以上のような福利厚生が定められています。".

<https://github.com/aws-samples/generative-ai-use-cases-jp>

<https://github.com/aws-samples/bedrock-claude-chat/tree/v1>

エンドユーザーでも生成 AI アプリケーションを自作可能な PartyRock



<https://partyrock.aws/>

お客様のチャレンジを支える AWS の支援体制

AWS ジャパン お客様担当チーム

お客様の課題を
最もよく理解する、
アカウントマネー
ジャー・ソリューショ
ンアーキテクトなどか
ら構成される、お客様
担当チーム

お客様ビジネスの理解
生成AI活用機会の発見
ゴールと成功指標の設定
プロジェクト支援

Prototyping & Cloud Engineering

実現したいソリュー
ションのプロトタイ
プを開発すること
を通じて、お客様のビ
ジネス加速を支援す
るグローバルチーム

要件のヒアリング
アーキテクチャ設計
プロトタイプ構築
引き渡し

AWS Partner

AWS のテクノロジー、
プログラム、専門知
識、ツールを活用し
てお客様向けのソ
リューションとサー
ビスを提供し、お客
様の成功をサポート

課題定義
ソリューション提案
システム化
導入・運用
ユーザサポート

Generative AI Innovation Center (GenAIIC)

生成 AI イニシア
ティブの設計、構築、
立ち上げを支援す
ることを目的とした、
包括的な専門知識を
提供するグローバル
チーム

概念実証 (PoC)
アドバイザリー
カスタムモデル
プログラム

AWS Professional Services

AWS クラウドで、
ビジネス成果を実現
しようとするお客
様をサポートできる、
それぞれの領域の専
門知識を備えたグロ
ーバルチーム

ワークショップ
推進組織組成支援
プロトタイピング支援
プロダクト開発支援
セキュリティ検討

Thank you!

